

WALTZ



otographed by Shimichi Eguchi

記の旋律

J4
110

WALTZ

花の旋律

photographed by Shinichi Eguchi



114250

CREO

[著者紹介]

江口 慎一 (えぐち しんいち)

◆1953年京都・伏見に生まれる。1977年愛知県立芸術大学美術学部デザイン科卒。約10年間のサラリーマン生活の後、フリーの写真家となる。
〈季節の詩〉〈光の絵・風の詩〉〈光響水彩〉など自然をテーマとした個展を開催。全国各地の風景・花など自然を撮り続けて現在に至る。

◆著書に《水の旋律・WATER》(クレオ)他。

◆日本写真家協会(JPS)会員。

◆〈Office〉京都市伏見区菊屋町845-1 EGUCHI CREATIVE STUDIO

(〒612) TEL.075-611-4032

水の旋律 ◆1994年10月25日 初版第1刷発行

◆著者=江口 慎一 ◆発行所=赤平堂 ◆エディトリアル・ディレクター=赤平 竜 ◆デザイン=熊谷 博人 ◆プリンティング・ディレクター=中江 一太 ◆印刷・製本=日本写真印刷株式会社 ◆装幀=株式会社 山総合システム ◆発行所=株式会社クレオ(東京都渋谷区道玄坂1-21-6) 電話03-3464-3025(代表)FAX.03-3464-0875 振替・00120-3-539376 ◆©1994, Printed in Japan ◆落丁・乱丁の場合はお取替えいたします ◆ISBN4-906371-60-4

◆これまでに、ずいぶん多くの花と出逢ってきた。そんななかで時折、素朴な疑問が頭をかすめる。花はどうしてあれほどの彩りに満ちているのだろうか……。パレットの上ではつくり出せないような色を、花たちはことものなげに、ひく自然にまもっている。

◆ファインダー越しに見る花は、光によってその色や表情を変える。逆光線の中では、繊細で壊れそうなガラス細工になり、曇り空の柔らかな光の下では、花びらは花心を包む絹のベールになる。一輪の花が、わずかな光の変化によって質感の異なる花になり、色のニュアンスも豊かさを増す。

◆見る側の感情によっても、花の印象は随分違うものになる。あるとき、誇らしげに咲いていると感じた花が、別の日には、ひくひかえめな花に思えたり、幻想的な雰囲気をもたらしていた花が、あくる朝には平凡なものにしか映らなかったりする。

◆花の本質はその色や形にあるのではなく、それが発散している光の中に隠されている。そして花を撮るということは、その瞬間の花の光を捉え、心の絵筆を使って光の絵を描くことなのだと思う。

◆いま花を想うとき、そこには花びらの光の粒子が風に舞い、あたり一面に眩いばかりの光と香りの旋律が響きわたる。光がかもし出す、研ぎ澄まされた瞬間をこれからも追い続け、感じるままに写しとどめたいと思う。

カバー表紙・プレリユード

カバー裏紙・回転木馬

本扉＝モノローグ

1 星のつぶやき

2 風・・・

3 一雫の花

4 金曜の午後

5 虹色の光

6 綴られた日記

7 やすらぎ

8 口だまりのなかで・・・

9 かくれんぼ

10 ピリオド

11 瞑想の色彩

12 黄色の光

13 夢の丘

14 霧雨のとき

15 小さな道化師

16 待ちぼうけ

17 つむじ風

18 ミルク色の風

19 光の余韻

20 響きあう旋律

21 花の精

22 ある日の追憶

23 モノローグ

24 朝露の音色

25 日覚め

26 静寂のおとずれ

27 ほほえみ

28 春の声

29 まどろみの中

30 セレナーデ

31 光の彫刻

32 風船になった花

33 沈黙の朝

34 無垢な心

35 やすらぎ

36 彩

37 迷宮

38 ぜんまいじかけ

39 ワルツ

40 妖精

41 催眠術

42 誘惑

43 アンダンテ

44 約束

45 ひとりごと

46 哀愁

47 夢想家の夢























